

THE NEW FARMERS

ニューファーマーズ

No.255
JAEC会報誌

- ◆郷土を興す農業者
- ◆日本を伸ばす農業者
- ◆世界を拓く農業者

contents

新年のご挨拶	1
研修生からの便り	2・3
派遣・受入	4・5
JAEC はこんなこともしています	6
協会の動き	7・8

ニューファーマーズ 249 号から、オンラインでもご覧いただけます。
本会ホームページに掲載するほか、Email でも配信しています。



Salinas の農場風景

ニューファーマーズ No.255 |
2024 年 (令和 6 年) 1 月 (年 2 回 1 月、7 月発行)
ホームページ: <https://www.jaec.org>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 5-27-14 日研アラインビル 8 階
TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)
03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)
FAX: 03-5703-0255

新年のご挨拶



公益社団法人国際農業者交流協会
常務理事 吉川 隆志
(東京都 S54/米2)

新春のお慶びを申し上げます。

みなさまにとって本年が健康で平和な一年となりますことを心からお祈り申し上げます。

前号の本誌でお伝えしましたように、2023 年 6 月に役員改選が行われ、会長が野中和雄さんからそれまで副会長を勤められた五月女昌巳さんに、また、常務理事が坂元良二さんから私に交代となりました。

野中前会長、五月女前副会長、そして、坂元前常務理事は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響を受けて協会が非常に厳しい運営状況となりました際に、難しいかじ取りを強いられる中、東奔西走され協会を難破させることなく無事に現在の状態まで回復させることに尽力されました。また、これまでの協会の長い歴史の中で重責を果たしてこられた大先輩方の敏腕ぶりやカリスマ的な存在感は誰もが認めるところです。その方々の中に脈々と引き継がれてきたことは、日本農業への深い思いや国内外の若手農業者の育成に懸ける

情熱、そして、世界の農業者が草の根大使として相互に交流することが世界平和に必ず寄与するという信念であると思います。協会職員ともども私もこれらの思いを大切に受け継いでこれからの協会運営に生かしていきたいと思っています。

残念なことに、現在、深刻な戦争や紛争が各地で勃発しており、また、地球温暖化による環境の急激な変化とそれによる災害は、人が明らかに肌で感じる事ができるほどまでになってきています。2015 年の国連サミットで決められた SDGs は、まさにそれらのことを解決するために実行目標とされた訳ですが、目標達成期限の 2030 年まであと 6 年に迫っています。海外農業研修から得た経験を活かして農業における様々なチャレンジに挑戦できるのも私たちの大きな可能性の一つではないでしょうか。また、その可能性を持った仲間を増やしていくことも SDGs に貢献することになるのではないかと思います。

私たちの家族や子供、孫、その子子孫孫までずっと困ることのない持続可能な社会、世界を作っていくことが今この世の中にいる私たちの役目です。年頭に当たり、今年はぜひみなさんと力を合わせて、私たちの可能性を一つずつ試していくことができたらと願っています。

今年一年もどうぞよろしくお願いいたします。

研修生からの便り



感謝を忘れず、毎日を大切に

日下部 夏美（兵庫県 R4 年度 アメリカ）

研修農場：Sky Valley Family Farm

Big Bend Community College での基礎学習期間を終え、配属農場に来て1ヶ月が経ちました。基礎学習期間中は、授業での学びはもちろんのこと、様々なアメリカの文化を経験させてもらったり、他の国から来ている人々とも交流したりと、とても充実した2ヶ月を過ごすことができました。また、寮で同期の研修生たちと毎日色々な話をして過ごした時間はかけがえのないものとなりました。

現在はワシントン州の小さな町にある、家族経営の畜産農家で研修をしています。鶏の卵がメインの農家ですが、他にもアヒルの卵、鶏肉、牛肉、豚肉の生産・販売も行っています。山に囲まれた

静かな町ですが、ホストファミリーにはたくさんの動物や小さい子供たちもいるので、賑やかに楽しく生活しています。従業員は多くはありませんが、農場主との距離が近く、ホームステイをしているので家族や親戚、友



達とも関わる機会がたくさんあります。

私が携わっている仕事は、鶏やアヒルの世話・卵集め、卵や鶏肉のパッキング、ファーマーズマーケットでの接客など多岐に渡り、様々な経験をさせてもらっていることに感謝しています。

もともと野菜専攻で畜産の知識がほとんどなかったので配属前は不安もありましたが、ボスや先輩に丁寧に教えてもらい、毎日学びながら出来る事が増えていくことに喜びを感じています。まだまだ苦手な仕事もあり、上手くできないもどかしさもありますが、何事も楽しみながら少しずつ前に進んでいきたいと思っています。

まだ1年以上あるこの研修も、きっと気づけばあっという間に過ぎてしまうのだと思います。自分の目標や日々の感謝を忘れずに、そして1年後、専門学習の場であるカリフォルニアでたくさんのお土産話を持って同期メンバーに再会できるように、1日1日を大切に過ごしていきたいです。



ファーマーズマーケットのスタンド

フリーダムでオープンなオランダ、求める力がついた

菊池 教史（茨城県 R4 年度 オランダ）

研修農場：Gebr Van Duijn B.V

Van Brakel Organic B.V

私は今年4月に茨城大学農学部を休学し、将来自分で農業経営をしたいという思いのもと、現在は経営面・農業技術において最先端であるオランダの施設園芸の有機農家で研修しています。4～9月下旬まではナスの施設園芸の会社で研修していました。

ナスの会社への配属は4月からでした。ここでは高さ5mほどのフェンロー型のハウスが約6haあり、ハイワイヤー方式でナスを長期間栽培しています。地元のスーパーだけでなく、ヨーロッパ各国やアメリカ、日本に purple pride というブランド品を出荷しています。私は総勢20人ほどのオランダ、ポーランド、ルーマニアの方々と働いていました。基本的に仕分けと箱詰め、収穫と誘引に分かれて仕事をします。収穫、誘引する際は昇降機を使用しており、特に収穫用昇降機は収穫後、自動で農場内の箱詰め場へと向かう仕組みになっていたため、最初見た時はとても驚きました。どの作業も機械化・自動化が進んでいるように感じました。また、ハウス内の環境制御技術とデータ管理にも驚かされました。ハウス内の環境



1件目のボスト

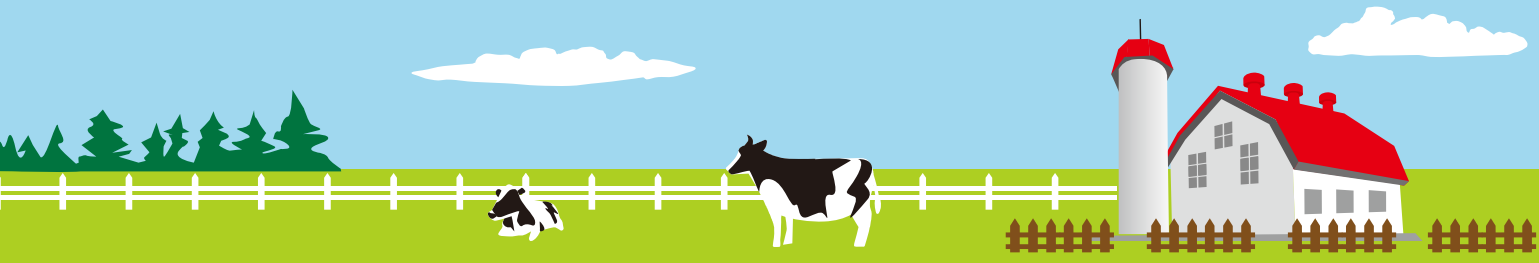


2件目のボスト

制御に関するデータには温度や湿度、CO₂、日射量、風…など項目が多く、これらを理解するのに苦戦しましたが、社内の specialist 達に助けて頂きよく学ぶことができました。研修前はそういったデータは研修生には見せてくれないと思っていましたが、ハウス内は仕事中でも撮影OKで、自分から「この日のこのデータが欲しい」と聞けば何でも見せてくださり、オランダのフリーダムでオープンな側面が感じられました。何度もそういったやり取りをしていく

うちに、渡航前に自分に足りていなかった「自分から必要なものを求める力」と「少しの図々しさ」が身に付いたと思います。

今の有機農家さんに配属してから数週間が経ちました。夏は主にキュウリ、冬はレタス類などを栽培しています。多品目栽培であることもあり作業が多く、とても充実した研修が出来ています。残りの研修期間も沢山のことを吸収出来るよう頑張りたいと思います。



トライ&エラーの繰り返し



私はオーストラリアのクイーンズランド州にあるレイクランドという僻地で農業をしています。私の研修先ではメロンとスイカを中心にバナナ、果菜類を含め250haを超える規模で露地栽培をしています。その出荷先はオーストラリア国内に留まらず、日本や諸外国にも輸出をしています。大規模農家ですが、設立して間もないため、年々拡大する農地に対応すべくボスやマネージャーも探り探りの中でベストを求めて仕事をしている状況です。時期によって前後しますが、繁忙期には30人ほどの従業員います。ワーキングホリデービザを使用して、様々な国の人たちが働いているため、色々な文化に触れる良い機会となっています。

万城 崇（岡山県 R4 年度オーストラリア）
研修農場：Daintree Fresh

私が4月下旬から研修を開始してから半年ほど経過しました。

ボスは私に多種多様な仕事をさせてくださいました。100ℓもあるタンクを使用しての液肥散布や播種、収穫、出荷調整、また農作業だけでなく、「農業」をしていく上で必要なオフィスワークやコミュニケーションの取り方なども指導して頂きました。

改めて振り返ってみると多くの失敗と挫折があったなと思わされます。自らの意思でこの環境を選んだにも拘らず、妥協してしまったことや、割り振られた仕事を理解不足なまましてしまったこと、しかしその経験はそれらを糧にして学び、成長する機会でもありました。ボスや仕事仲間たちは失敗を責めるのではなく、次、成功



おいしいスイカできました！！

ることを期待してくれていました。その度に私は期待に応えようと今の自分が精一杯出来ることをしようと思えることが出来ました。

農作業はシンプルなものですが、それでもなお私のした単純作業がこの世界を回りまわって誰かの笑顔を作っていることを期待して、失敗しても臆することなく挑戦を続けようと思いました。

18 歳、好きを追いかけて

永井 真生（兵庫県 R4 年度アプレンティスシップ）
研修農場：坂根牧場（坂根遼太 H16 米2
坂根晃子 H12 デンマーク /H17 米1）

私は今、北海道は大樹町にある坂根牧場で研修中です。

牛が好き、英語が好き、留学もしてみたい！そんな思いを浮かべて過ごした高校生活でしたが、コロナ禍によりそれらはすべて思うようにいかず……。好きを追いかけたくて見つけたのがアグトレでした。現在は来年度の渡航に向けて修行中です。

兵庫県の住宅街の中にある農業高校で過ごしてきた私にとって、北海道の広い土地、牧場の軒数、道路の広さなど、見るものすべてが新鮮でわくわくします。特に坂根牧場は放牧で180頭近くの乳牛を飼養しているため、広大な放牧地がありその景色は圧巻です。

私は子牛の管理全般や搾乳、時には牧場の紹介動画の作成など、

様々な仕事をしています。もちろんうまくいくことばかりではなく、ここまでの半年間で数えきれない程の失敗をし、怒られたことも落ち込んだことも多々あります。しかし、



牛、大好き！

どんな時でも社長が前向きな言葉をかけてくださるので、自分自身も何事にも前向きに取り組めるようになってきました。

牧場は体を動かすだけじゃないよね、というのが最近の社長との

ホットな話題で、単純作業を繰り返す日々ではなく、どうすれば効率良く仕事ができるか、哺乳一つでもっと簡単なやり方はないか、空いた時間をどんなふうに使うか等々体と同時に頭もフル回転で仕事に励んでいます。特に私は研修生であり研修期間が終われば坂根牧場を去る身ですから、今任せてもらっている仕事を次にやる人がもっとやりやすくするためにはどうすればいいかを毎日考えています。

仕事以外でも、週一回町の英会話教室に通ったり、共進会があれば近隣農家さんのお手伝いをさせて頂いたりアクティブな生活をしています。研修を始めて半年のはずなのに、獣医さんや農家さんに「もうすっかり馴染んでる。まるで何年もここにいたみたいだね」と言われます。温かい方々に出会えて本当に自分は幸せ者だと思う日々です。

北海道はこれから長い冬が来ますが、寒さに負けず、残り半年心身ともに磨き上げて渡航に備えます！



令和6年度の海外農業研修生は、 1月より募集開始しています！



受入農家でバギー運転



アメリカの研修を満喫

●募 集 期 間

2024年1月15日（月）
～8月12日（月）

●プレエントリー期間

2024年1月15日（月）
～8月4日（日）

※全体的に前倒しになっていますので
ご注意ください。

ぜひお近くの若者にお声がけください！

◇アメリカコース

海外農業研修の参加者数は、コロナ禍を跨いでほぼ横ばい（漸減）で移行してきていますが、少しずつ研修生を取り巻く環境は変わってきています。特に、コロナ禍により各国の受入農場の状況が変化したことがあげられます。経営が悪化してしまった農家が農場をたたんでしまったり、コロナ禍で外国人が入ってこられなかった状況を別のシステムを利用して人材確保するなど、海外農業研修生を受け入れる機会が減少したことがあげられます。これにより、現地受入農場の確保が重大な課題です。

また、研修参加者の農業経験不足も指摘されてきています。大学や農業大学校を卒業後すぐ、または休学して海外農業研修に参加する人が大多数で、農家子弟もいますが、多くは非農家出身です。そうすると、農業は学んだけれど実践経験がない人も多く、現地農場が求めるレベルには遠く及んでいない現状があります。だからと言って農業経験期間を厳格にすれば、ほとんどの研修生が参加できないというジレンマがあります。

この対策として、6月渡航までの2か月（4月、5月）を国内実習に当てています。渡航前の研修生たちにとっては、非常に貴重な準備期間になっています。実習を受け入れてくださっているOB・OGの皆様に、深く感謝申し上げます。

◇欧州各国コース

欧州各国の研修受入条件が厳しくなり、希望者が参加にまでこぎつけないケースが多くなっています。第一条件として、大学や大学校で農業を学んでいる、あるいは卒業して間もない方しか参加できません。現地滞在許可（ビザ）の取得条件が各国厳しく定められており、年々申込関連書類も複雑化してきています。オランダでは、予め英語によるインタビューが実施され、コミュニケーションが十分とれると判断されない場合は、プログラム参加を延期せざるを得ないこともあります。

◇オーストラリアコース

今年度から募集を一時中止することとしました。コロナ禍の影響から現地の受け入れ態勢が乱れ、また、近年の気候変動による農作物の育成環境の悪化、コロナ明けのバックパッカー急増など、研修事業を取り巻く環境が激変したことから、安定的な事業運営が困難であると判断したためです。ご期待頂いていた皆さんには心よりお詫言申し上げます。

ネガティブな情報ばかりになってしまっていますが、どこの国においても農業経営者は厳しい経営の中、人件費を抑えることを考え、農業研修生の受け入れとそれ以外の手段を天秤にかけているという現実があります。一方で研修生を受け入れたいと強く思ってくれる農家があるのもまた真実です。

人材育成がなければ、5年後、10年後の日本の農業は今とは全く異なるものになります。海外農業研修には、そういう重要な役割があるのではないのでしょうか？プログラムの存続ありきではなく、人材育成のために必要なことは何か、問われているのではないかと思います。

受入事業

海外からの研修生を受け入れることで広がる可能性

海外農業研修のOB・OGの皆さんは、研修中どのような時間を過ごされたでしょうか？きっと楽しさだけで語り尽くせぬものではなかったかもしれませんが、苦難を乗り越えた経験は大きな財産となっていることと思います。また、あの時身に着けた知識や人脈は思わぬ形でご自身を助けているに違いありません。

本会が実施している受入事業では、アセアンや欧州（特にドイツ）の研修生等の受入についてご協力いただける方を募集しています。

それぞれのプログラムで受入農家の募集時期は異なりますが、研修生が来日するタイミングは大体3月～4月になっています。



農場配属日の上野駅



都内視察で雷門へ

①アセアン農業研修生（タイ、インドネシア、フィリピン）

ODA（政府開発援助）の一環としたアジアの農業青年の人材育成事業です。将来の地域のリーダーとなる人材と一緒に育成します。農業技術はもとより、文化や習慣なども深く学べるように受入家族との同居（食事含む）をお願いします。人材育成、国際交流、多文化共生にご理解のある方の応募をお待ちしております。令和7年度の募集期間は2024年9月末までです。

研修期間	約11ヵ月（4月下旬～2月上旬）
研修生	概ね20代（渡航時30歳程度前の男女）
農家負担額	約100万円/人（令和5年度の場合） ※これとは別に宿泊と食事の無償提供と国民健康保険のご負担をお願いします

②技能実習生受入事業（フィリピン、タイ）

フィリピンのベンゲット州（ルソン島中部の高原野菜の産地）を中心とした農業振興プロジェクトの一環として実施しているため、実習生は皆この州の農業青年です。また、タイの実習生は、農村地域の北部諸州の若者が技術習得と向上のために参加しています。両国ともに農村部から純朴な青年が来日し、一生懸命働きながら技術を身に着けます。

※技能実習制度は廃止となり、次年度以降「育成就労制度」が後継となります。現在関東近県を中心に募集しております。

実習期間	3年間（通年）来日は例年3月です
実習生	概ね30歳程度までの男女
農家負担額	約100～120万円/人（初年度 渡航経費、入国前後講習費、管理費等） ※これとは別に給与、社会保険料（法人経営の場合）、労働保険がかかります

③特定技能外国人受入事業（フィリピン、タイ）

技能実習修了者（2号以上）あるいは技能評価試験と日本語試験（JLTP N-4 または JFT-Basic）の合格者を対象としているため、農業経験やスキルを持つ即戦力となる人材をお探しの方にピッタリです。本会では、単なる労働力としてではなく人材育成の観点を持って雇用してもらえ農家を募集しています。なお、有資格者の場合であっても入国までの6ヶ月以上の準備期間が必要になりますので、予めご理解ください。

就労期間	1～5年間（通年）
特定技能生	概ね30歳程度までの男女
農家負担額	約50～70万円/人（初年度 渡航経費、入国前後講習日、管理費等） ※これとは別に給与、社会保険料（法人経営の場合）、労働保険がかかります

JAEC はこんなこともしています

畜産ティーン育成プロジェクト

農業を学ぶ高校生たちに、海外農業研修を通じて畜産の魅力を深く理解してもらうとともに、自分が感じた畜産のすばらしさ、将来の夢を学内外で発信してもらい、最終的には畜産の就農率の向上につなげるという目的の事業です。2018年よりJRA畜産振興事業の助成によって継続的に実施しています。

今年度は、全国から選ばれた18校20人の高校生がオーストラリアクイーンズランド州テーブルランドの畜産を学びました。オーストラリアの肉牛は日本ではあまり見られない背中にこぶのある品種が広く飼育されていたり、女性の農業者の

活躍が目覚ましい事を知りました。また、同世代の畜産を学ぶ高校生との交流を通じて、畜産ビジネスの魅力を再認識しました。

体験を通じて畜産の魅力を発表する畜産アンバサダー活動は、国際化対応営農研究会でも実施されています。高校生たちのまっすぐで、夢にあふれたスピーチは特に人気の取組になっています！



日本にはないものを見て、大きな刺激になりました。写真はセールヤード（市場）の視察の様子



各地でセミナーを開いて理解を深めてもらっています。

NGO 連携技術協力事業

これまでも本紙では何度かご紹介してきましたが、フィリピンの農業者を支援する活動は2007年に国際協力機構（JICA）との共同事業である「JICA 草の



根協力事業」という形で始まりました。炭や木酢液などの有機資材を用いた「安全野菜生産技術」を普及する活動からスタートし、今度は生産地から販売拠点までを安定して輸送させていく仕組みを構築する段階に入っています。コロナの影響も色濃く、思い通りの進捗には至っていませんが、コールドチェーンの仕組みとしっかりした卸拠点の確立に向けて、あと1年事業を推進して行きます。

◆令和5年度バイエル スカラーシップ

農薬メーカーのバイエルの支援により、海外農業研修に参加する者の中から、5名に一人20万円の奨学金をお出し頂いています。海外農業研修生のご支援に心より感謝申し上げます。

◆駐日オランダ大使館開催のイベント

2023年11月29日駐日オランダ大使館大使公邸で開催されたWorkshop Modern Farm Management & Networking Receptionでは、持続可能な農業とその経営について、宮崎産業経営大学及び高知大学客員教授のJos Verstegen氏が講演し、また、オランダ農業省Karen Bakhuizen氏、受入機関(SUSP)のMarlous Mens-Vos氏がオンラインで登場するなど盛りだくさんな内容でした。さらに、パネリストとして海外農業研修OB・OGの鈴木美登里さん(茨城県)、染川大輔さん(愛知県)、井出康平さん(神奈川県)が登場し、流ちょうな英語で自身の農業経験や今の経営、これからの農業で必要なことなどを熱弁しました。レセプションには、海外農業研修とOB・OG、オランダ留学経験者、東京農業大学の学生など、総勢65名ほどが集まりました。



◆協会の行事予定

令和6年度総会 開催日 2024年6月5日(水)開催場所 主婦会館プラザエフ

令和6年度ブロック別国際化対応営農研究会 ※令和6年度後半に全国5ブロックで開催予定

◆協会人事

<着任> 〜よろしくお願ひします〜

令和5年 8月 1日 ズハイラ・ザーテュル・ヒマ (業務部受入業務課職員)

令和5年10月24日 児玉 広志 (海外農村開発支援事業専属職員)

令和5年11月 7日 堀 美佐 (業務部派遣業務課職員)

令和5年6月19日以降(NF254にて紹介後)に御寄付頂いたのは次の方々です。(令和5年11月27日現在)

北海道/田中 滋久 榎本 一壽 鈴木 順一 生出 幸雄 新藤 修 中山 忠範 小林 靖夫 高橋 博一
高橋 貞光 瀬口 俊行 青森県/藤井 英雄 村上 隆昭 吉田 秀美 岩手県/横石 善則 杉澤 康身
小倉 真理子 宮城県/高橋 均 川村 雄治 秋田県/佐藤 正一郎 山形県/後藤 正美 渋谷 政信 福島県/
川口 正伸 津守 金則 佐藤 光信 茨城県/大原 篤 栃木県/伊藤 直樹 群馬県/大山 岳志 彦部 潔士
千葉県/鷹尾 保馬 成山 敬治 山崎 明 岩澤 正直 木村 政幸 藤井 佐紀子 東京都/高杉 晋一
瀬井 富雄 工藤 巖 神奈川県/福原 康人 柳田 敏幸 石川県/南出 清司 福田 進 山梨県/羽田 稔
岐阜県/石神 五雄 静岡県/鈴木 好之 三重県/西 吉長 滋賀県/北村 進一 京都府/小嶋 直樹
中野 宏 近藤 康人 兵庫県/吉田 二雄 加藤 寿之 奈良県/松井 識樹 島根県/安達 順 石原 順治
岡山県/平松 紀明 広島県/栗田 賢 森田 幸秀 山口県/原田 基也 徳島県/三木 康弘 香川県/国方 弘
愛媛県/広沢 初志 高知県/矢野 知義 佐賀県/稲富 篤 長崎県/藤川 勇 宮崎県/大平 落 泰憲 鹿児島県/
下田 保幸 板元 岩雄 木佐 貴 久治 沖縄県/仲本 英宏 名嘉 重則 (順不同、敬称略)

また同じく 今回新たに賛助会員へ入会されたの方々です。

北海道/糸屋 新一郎 渡邊 邦衛 青森県/林 勝治 岩手県/佐々木 嘉春 紺野 啓 宮城県/松崎 安典 今野 建司
半澤 善幸 福島県/大内 俊昌 茨城県/大貫 善之 栃木県/柳町 広 和氣 達哉 森島 規仁 群馬県/根岸 宏行
埼玉県/羽鳥 雄一 石井 豊史 細田 保浩 江黒 繁雄 千葉県/磯貝 正一 藍川 英樹 鷹尾 保馬 (有)北川 鶏園
神奈川県/伊藤 洋文 早藤 義則 新潟県/首藤 正人 鈴木 裕昭 島田 福德 山梨県/中込 豊 甘利 浩信
羽田 稔 長野県/高見澤 宣男 富永 創治 横森 利明 菊池 辰夫 菊池 隆明 菊池 隆仁 零田 米男 嶋崎 兵治
新海 昇 風間 久治 井澤 亮 高見澤 良夫 零田 茂 青野 勝 井出 博彦 今井 瑞穂 新海 善光 浅見 満
中道農園(株) 信州くだもの村富永農園(株) 静岡県/兼子 保峰 渡辺 守男 平野 耕志 福井県/山田 豊 武藤 明彦
建石 正治 愛知県/横山 賢一 原 宜延 宮下 優子 内藤 完次 京都府/植田 修 小嶋 直樹 和歌山県/
橋詰 孝 富岡 幸男 岡山県/石原 直樹 大内 盛勢 広島県/光永 浩章 愛媛県/工藤 清志 森崎 正 田村 隆悟
福岡県/田中 信喜 熊本県/河瀬 憲雄 中川 利美 宮崎県/園田 武文 富満 哲夫 河野 雄一郎 沖縄県/
喜友名 朝秀 与那嶺 修 林 昌平 石川 清友 (株)ファインフルーツおおぞみ (順不同、敬称略)

賛助会員・寄付のお願い

国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会を支えて頂いております。希望される方は、協会までご連絡ください。または、同封の払込取扱票によりお申込み下さい。

●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。
ご寄付にあたってはゆうちょ銀行（同封の払込取扱票）又は、銀行振込（振込手数料はご負担ください）をご利用いただけます。

払込取扱票	銀行振込先口座
ゆうちょ銀行 加入者名：公益社団法人国際農業者交流協会 口座番号：00110-8-538246 ◆領収証送付のため、通信欄にご芳名、ご住所、電話番号をご記入ください。	みずほ銀行 蒲田支店 普 通：3106914 口座名：公益社団法人 国際農業者交流協会 シヤ) コクサイノウギョウシャコウリユウキョウカイ ◆領収証送付のためにご芳名等がわかるようにお振込みください。

賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年2月中旬までに送付しますので、確定申告にて税額控除を受けることが出来ます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。

https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら 電話番号 03-5703-0251



AIG損害保険株式会社

AIG

CCA東京支店

担当 室田・石川・杉村

〒105-8602 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル 6F
TEL：03-5637-0721 FAX：03-3622-2040

編集後記

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
令和6年度海外農業研修生の募集は1月スタートとなっています。ぜひお近くの若者にお声がけをお願いいたします。



辰



週刊 月4回 金曜日発行
月額700円、年額8,400円

■お申し込みはお住まいの市町村農業委員会へご連絡ください

[発行所] 一般社団法人**全国農業会議所**

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8中労基協ビル
電話：03-6910-1130(平日9:00～17:00、土・日・祝日は休み)
ホームページ：<https://www.nca.or.jp/shinbun/>

パソコン・タブレット・スマホでいつでもどこでも新聞が読める

電子版を配信中!!

全国農業新聞

検索



クレジットカード払いのみでのお支払いとなります

月4回・毎週金曜日・午前0時配信 購読料 月額500円・年額6,000円



国際農友会 会報誌

Vol.29 contents

ご挨拶.....	1
各ブロックからの報告	2~4
天地人.....	4
啓発キャラバンのすすめ	5
海外農業研修生たちがまとめた書籍...	6
研修の仲間のチカラ.....	7
会員のひろば.....	8



ハワイマウイ島のビーチ

新年のご挨拶

国際農友会 会長
檜垣 真城
(愛媛県 / H3 / デンマーク)



あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、私は昨年6月の総会におきまして会長を拝命し、初めての年度の国際農友会活動を進めてまいりました。久しくコロナ禍により滞っていた人流も正常化し、総会や理事会等の会議をはじめ国際化対応営農研究会など対面イベントが開かれるようになりました。こういった機会に触れ私の中に巡る思いは、直接会って話すことの大切さです。ZoomやTeamsなどオンラインミーティングを支えるシステムがすっかり定着し、ともすれば人と一度も会わないまま商談したり物事を決めたりできるかもしれません。ビジネスの利便性を高め商売の成立までの速度を飛躍的に向上させたに違いありませんが、昭和に生まれ、口角に泡する先輩方の叱咤激励を、つばの届く距離で聞いてきた私などにしてみると、どのようなあの熱量を伝えられるのかと疑問さえ感じるときがあります。

昨年11月24日には、中国・四国ブロック国際化対応営農研究会が香川県で開催されました。この大会には総勢50名を超えるOB・OGが集まり、大変盛況でした。講演や事例発表、パネルディスカッションなど盛りだくさんでその内容が秀逸だったことは勿論ですが、久しぶりの再会を喜びお互いの近況を伝え合う様子が会場内の方々で見られ、こういった集まりが持つもう一つの意味を考えたいわけです。

海外農業研修が70年以上の歴史を持つに至ったのは、参加した皆さんが各国受入農家や現地に関る人々と何ものにも代えがたい人的交流により信頼を築いてきたことのおかげであり、それこそが海外農業研修の礎です。無数に交わされた握手が結び続けた絆です。この尊い人と人、農業と農業のつながりを後世に伝えるためにも、海外農業研修をしっかりと支えて行くOB・OGが必要です。

一昨年より農業教育高度化事業によって研修経費の半額最大60万円が助成されるようになりましたが、海外農業研修の重要性を考えれば、満足の行く支援状況とは言えないかもしれません。今一度、我が国が日本の若者を、日本の農業をどのように導いていくのか見定め、時として、歴史に裏打ちされた海外農業研修の価値を示して支援の必要性を訴えるとともに、私たち自身が仲間になりたいと思う若者を力強く海外農業研修に送り出していきたいでしょう。今年は辰年。研修生たちが多数海外農業研修に発つ年にならうと思います。

就任のご挨拶

国際農友会 副会長
椎橋 美孝 (埼玉県 / S63 / 米)



令和5年度の国際農友会総会において副会長に就任いたしました椎橋美孝と申します。退任した星前会長の後を引き継いだ檜垣会長を、藤森副会長と共にサポートしていきたいと思っております。で、宜しくお願い致します。

コロナウイルス感染症の蔓延からの制約された生活からも徐々に解放され今までの日常が戻りつつある日々を迎えようとしていますが、長引くウクライナとロシアの紛争、ここきてのイスラエルとパレスチナの問題と世界の情勢は不安材料だらけであるといえます。我々が日々携わる農業分野も資材や燃料費の高騰で厳しい状況にあります。農産物生産者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加など、国内の農業後継者の育成は国の重要な課題であると思います。全国各地に活躍する海外研修卒業生は一万五千人に上ります。我々一人一人が手を取り合い情報共有していくことが大切であります。国際農友会もその手助けをさせていただければと考えております。

国際農業者交流協会の事業も派遣、受け入れとコロナ前の状況に戻りつつあります。派遣研修生の数は決して多くはありませんが、私たちが体験した貴重な海外での生活を一人でも多くの若者に経験してもらいたいと思います。国際農業者人材育成協議会の指導も仰ぎながら引き続き国からのサポートも得られるように活動していきたいと思っておりますので、今後とも皆様方のご協力よろしくお願ひしたいと思っております。

山形県での取り組み

山形県国際農友会会長 小林 藤徳（H4 / 米2）

組織活動として山形県立農業大学校と山形大学農学部への啓発キャラバンを続けてきていましたが、コロナ禍を境に、その流れが止まってしまった印象です。特に、農業大学校生が海外農業研修に興味を示さなくなっているし、さらに残念なことは、大学の指導教員の先生方にしても、あまり取り組みに興味をお持ちいただけていない様子だということです。学生の皆さんが就職や就農に向けてがむしゃらに突き進み、他のこと、ましてや海外にまで目が向かないのであれば、少し離れたポジションから学生の将来を導いてくださってもいいのではないかと感じます。

新設され、農大も2年制の学校として併設されますが、大学（4年制のコース）では、農業経営学部（農業経営学科と森林業経営学科の2学科）が設置され、特に農業経営学科では農業の生産技術及び経営力を高める学びを提供するとうたわれています。就農に向けて意欲ある学生が集まる学科のようですので、海外農業研修にもきつと興味を持つ学生がいるでしょう。これまでは山形大学農学部に頼るところが大きかった大学からの参加者を新たに増やしていくきっかけになればいいと思っています。



東北農林専門職大学ホームページより

しかし一方で、農業の可能性や重要性について期待するのは、今年4月に開学が予定されている東北初の農業専門職大学の東北農林専門職大学が誕生することです。現在の山形県立農業大学校敷地内に

組織活動が滞ってしまわないよう、できる範囲でこれからも貢献していきたいと考えていますので、よろしく願います。

実際のところ、本会の組織活動は困難なことが多いです。会員数が少ないこともありますが、会の集まりに人があまり来ないことや、それに付随して会費が集められないこともあります。

組織活動が滞ってしまわないよう、できる範囲でこれからも貢献していきたいと考えていますので、よろしく願います。

営農研究会の宣伝とブログ・インスタ開設について

静岡県国際農友会会長 長澤政幸（S57 / 米1）

静岡県国際農友会会長の長澤です。前回に引き続き寄稿します。

まず、今年度の関東甲信静越ブロック国際化対応営農研究会について宣伝させていただきます。今年度は静岡県主催で、令和6年1月31日に開催予定です。内容としては、輸出や海外展開に注目したものになっています。

基調講演では、日本貿易振興機構（JETRO）静岡貿易情報センター所長の藤本氏をお招きし、「世界とつながる日本の農産物」のタイトルで、日本の農産物輸出を取り巻く現在の状況について講演していただきます。講演の中では、農産物の販売戦略についてもお話しいただきます。藤本氏の考えとして、販売には「仲間作り・ファン作り」が重要だと伺っています。輸出に限らず、また国内外問わず参考になる面白いお話が聞けそうです。

本会会員による事例発表は、高糖度トマト「アメーラ」の生産法人に就職した、H29年度アメリカコース（野菜 修了の仁科太一君）にお願いしています。

アメーラは近年、スペインにも生産拠点を持つなど、海外展開を進めています。今回の発表タイトルは「トマトで人を笑顔にしたい」とのことです、農業者としての将来の展望なども聞けたらいいなと期待しています。

会長の私個人としましては、コロナ禍の活動自粛期間や、今回のブロッ

ク大会運営の関係で、足かけ7年もの長期間、会長職を務めました。このブロック大会は、自身の会長職の集大成として考えています。多くの皆さまの参加を期待しています。

さて、話は変わりますが、先日、本会のブログとインスタグラムを立ち上げました。左のQRコードを読み取って、ぜひ一度御覧ください。これらを使って、会の活動記録やイベント案内をしていく予定です。ブログは、国際農友会ホームページ上に作成しました。「県別組織」の欄から御覧いただけます。記事の投稿が簡単で、大変便利です。他県組織もぜひ利用してもらえると全国の様子がわかって嬉しいですね。インスタグラムでは、ゆくゆくは県内外の会員が交流を行う場として使っていきたいなと思います。若手会員や将来の研修生、他県組織会員などに、本会を身近に感じてもらえたらと思っています。皆さまからのコメントもお待ちしております！



@NOYU_SHIZUOKA



静岡県国際農友会 ブログ

静岡県国際農友会 インスタグラム

会員交流会へのお誘い

愛知県国際農友会会長 杉浦友広（H3 / 米1）

愛知県国際農友会は、5年前に50周年を迎えました。その歴史の中で設立初期より続く2つの活動があります。冬に行われる国際農業者フォーラムと夏の会員交流会です。今回は会員交流会について紹介させていただきます。

昭和49年から続く会員交流会は7月下旬か8月下旬の子供の夏休みになってから行う、会員家族、研修生が集う交流会です。近年の参加者は5〜60人程度となっています。愛知県には9つの支部があり、持ち回りで開催というのが基本ですが、それぞれの支部により得意不得意があり国際農業者フォーラムとあわせて持ち回りになっているのが現状です。

昨年はブドウ狩り、コロナ以前は海水浴や地引網なども行ったことがあります。今年は、会員の経営する温室を利用した全天候型BBQ、キャンプ場で開催しました。企画運営は担当支部が行い、支部会員の皆さんが趣向を凝らして色々なものを提供してくれます。



交流会会場



名古屋コーチン丸焼き



じゃんけん大会景品授与

そして子供達には川遊びと子供用のビニールプールを使ったアマゴのつかみ取り（その後塩焼き）を催してくれました。最後は恒例の会員が持ち寄った農産品を中心とした景品争奪のジャンケン大会で大いに盛り上がりました。

美味しいものとお酒も入り、この会の最も良いところである老若男女、国籍問わず様々な人と海外研修の昔話、農業経営、はたまた家庭生活や人生ついでと様々な話ができた充実した時間を過ごすことが出来ました。

こんな感じで毎年開催しています。ここに愛知県以外の地域の方が加わってもらえることさらに充実したものとなります。わが県もご多分にもれず会員の参加者が少しずつ減ってきていますので地域を越えた交流で互いの会の活動を盛り上げるモチベーションにも繋がると思っています。

ぜひ、夏休みに家族旅行を兼ねて遊びに来てはいかがでしょうか？※詳しくは愛知県国際農友会か、最寄りの愛知県の同期の者にお尋ねください。

中国・四国ブロック

営農研究会をブロックを超えた会員交流の場に

KOKUNO 香川事務局長 宮崎正幸（S53 / 米1）

令和5年11月24日に高松市で「令和5年度中国・四国ブロック国際化対応営農研究会」を対面で開催しました。研究会は4人の畜産アンバサダーと引率教諭を含めた総勢61人、懇親会には50人が参加し、盛大で活気のある楽しい会となりました。

研修生OB・OGの積極的な交流を図るため、大会

案内は各県組織に加え、本県会員からブロック外も含めた同期研修生などに個人的に行い、一方で畜産関係者を除いて農業団体には参加要請を行いませんでした。これは今回の大きな試みであり結果が心配でしたが、

ブロック外から多数のご夫妻での参加があり、一番の成功だと思っています。「ブロック内を対象とした」研究会から「ブロック毎に開催する」研究会への発想の転換です。

もう一つ大きな成果は、WEB配信できたことです。昨年度開催した島根県からの要請でお願いしたもので

すが、当初、研究会に参加できない方にLIVEで情報を届けるものとして考えていませんでした。しかし、実際には以後も継続的に配信されるため、参加者を含め誰でも繰り返し視聴して内容を正確に把握でき非常に有意義です。

また、開催要領の目的をシンプルにしてテーマを省き、長時間の講演をなくして各人の発表時間を20分以内としました。その結果、



2日目の会議の様子



パネルディスカッション

最初から最後まで緊張感を保ちつつ、自由な発表発言が得られました。畜産アンバサダーの発表についても評価が高く懇談する場を希望する声が多くありました。

懇親会には「国際競争力ある農業人材の育成に向けた議員連盟の三宅伸吾参議院議員が出席され、衆議院本会議のため欠席された国民民主党代表の玉木雄一郎議員から激励のメッセージを頂きました。

国際農友会の榎垣会長も参加した3次会では、「議員連盟の国会議員を応援することが必要支援を得るためこちらでも支援する」と確認しました。さらに、農友会会員が議員に立候補する話に発展しましたが、顔を合わせて話し合う大きな意義であると思っています。

翌日の会長会議では、前回リモート開催した島根県から、再度、対面で開催したいとの申し出があり、2年後に繰り入れて開催することになりました。

また、この機会に観光地を訪れたグループもありました。研究会だけでなく、2次会・3次会を含めた懇親会、農業視察や観光地巡りの要素を取り入れ、ほぼ目標が達成できたと思っています。

出席者の皆様、Web配信にご尽力いただいた愛媛県国際農業者交流協議会副会長の清家様、大変ありがとうございました。農友会会員の皆様、今後も海外農業研修の発展、会員の交流と経営発展に力を合わせましょう。

あれから45年アメリカは遠くになりました

宮崎県国際農友会（会長 甲斐 秀徳（S51 / 米2））

会長になり2年目となりました。多くの会員と接する機会は増えましたが、町会議員との二刀流の為に県担当の方々、役員の皆様にご迷惑をおかけしており大変申し訳なく思っております。今年は研修生の応募がなく残念です。昨年は3名の農業研修生派遣選考会を行いました。



ユニバーシティリンカーンネブラスカ

るだけ、日曜日は馬を連れて競馬場（ボスガトレナーの免許を持っていたので私はパドックまでの引き役）時々はオレゴン州ポートランド・アイダホ州ボイシーによく行きました。また、近くの地方競馬場にも出走させました。母馬を各州の牧場に預け仔馬だけを引き取りに行ったこともあります。ネブラスカ州ユニバーシティリンカーンの卒論は馬について書きました。ただ牛については和牛林間放牧のテーマで書き、今でも時々見るものがあります。昨年からの飼料、牧草の高騰、そして子牛相場の下落により高齢者方々の廃業、最近ではクラスタ事業を利用した若い方の離農が拍車をかけており、農業経営の圧迫感があります。和牛繁殖、肥育農家は自給肥料の増産を目指すのと放牧それも林間地放牧を行います。国、自治体も各種の補助金を出して離農させないための下支えを行っておりますが、いつまで続くかわからない。今こそこれまでに海外で勉強した事を地域の為に発揮してほしいものです。



ポートランドオレゴンの競馬場近くのホテルにてボスファミリーと

た。選考会に来られた方々の研修に期待することについて伺い、私の当時の選考会で自分は何を期待していたか、どんな話をしたのかは定かではなく、いまの研修生ほどハッキリと言えたのか疑問が残ります。一口に45年前とは言え語学研修、実習先の場所、当時の先生、農場主そのファミリー、実習のアクシデントなどはいまだにはっきりと思ひ出します。専攻が肉牛だったジャガイモ農場・競走馬飼育農場、牛はボスの親父が二千頭ほどいて時々手伝うだけでした。当然、朝一番に馬の世話をして畑に出てトラクターに乗

い自給自足の農業を目指す方も増えております。国、自治体も各種の補助金を出して離農させないための下支えを行っておりますが、いつまで続くかわからない。今こそこれまでに海外で勉強した事を地域の為に発揮してほしいものです。

てんちん 天地人

Unconscious Bias

国際農友会 理事

大井 圭吾（秋田県 / H2 / 米2）

OB・OGの皆様、こんにちは。

僭越ですが、私の名前に見聞き覚えのある方は、ありがとうございます。国際農業者交流協会職員として1993年～2000年までは東京本部にてアセアン等の研修生受入業務、2000年4月～2005年3月までは米国支部勤務をしておりました。受入農家さんはもとより当時の研修生、そして職場の先輩、同僚の皆さんに大変お世話になりました。有り難い経験をさせていただき、感謝しております。協会退職後、郷里の秋田県大潟村で稲作農家を営み、19回目

の稲刈りをなんとか終えることができました。

この度、縁あって公益社団法人国際農業者交流協会及び国際農友会の理事を拝命いたしました。理事の初仕事は令和5年6月の通常総会への出席でした。総会に引き続き、臨時理事会が緊迫した空気の中開かれ、新たな会長、副会長、常務理事そして、事務局長が選任されました。常務に吉川さん、事務局長に清水君が就任され、自分の勤務時の先輩、後輩の就任の挨拶を聞いていると、頭の中は一気に30年程前に遡り、何故か当時の常務や事務局長、職場の面々の、厳しい顔や朗らかな顔が頭に浮かび懐古的な気分に戻ってしまいました。

さて、先日偶然が重なって米映画「招かれざる客：原題 Guess Who's Coming to Dinner」を再視聴しました。邦題はサスペンスもののような感じですが、人種差別と結婚をコメディタッチにした映画です。（図らずしも今回は年頃の娘を持つ歳になったせいか涙腺がかなりゆるんでしまいました。）1967年の映画なので研修生の渡米も既に始まっていますね。

海外研修に行くことは期せずともマイノリティの立場を経験することになると思います。恐らく、多くの研修生が海外で暮らすことで差別の現実を肌身で感じる機会があったと思いますし、実際に差別の当事者になった研修生もいるのではないのでしょうか。

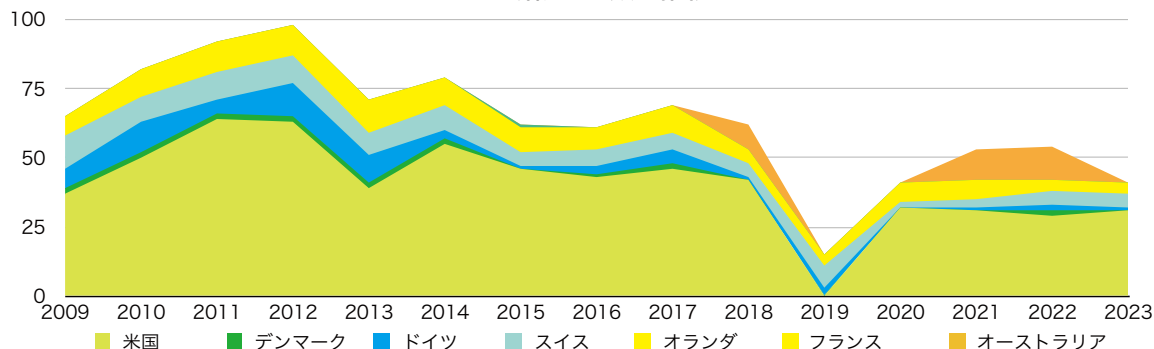
アンコンシャスバイアスという言葉はNHKラジオで数年前に初めて聞きました。私なりの解釈で「無意識下の偏見、差別」、例えば、本人は差別的な発言をしているつもりは無くてもその言葉が相手にとっては誹謗中傷になってしまうこと。自分は差別や偏見とかを持ってないと思っている人でも、当事者でない限り、非当事者は無意識に差別になるような発言や行動をしてしまう可能性はあり得るのです。

非常にデリケートな事と承知で敢えて書きましたが、果たして自分はマイノリティだったのだろうかと言った観点で研修当時を振り返ってみることも意味深いことではないのでしょうか。そして、その記憶は海外研修の副産物として今の時代を生きる一助になるんじゃないかと私は思いました。（無理やりまとめました。皆さんお元気で）

啓発キャラバンのすすめ

国際農友会事務局

研修生人数の推移



農業の魅力を語れる 海外農業研修の仲間 になろう

海外農業研修への参加希望が増えるためには、全国各地に散らばった海外農業研修のOB・OGが、各地で後輩たちに海外農業研修を勧めて行くことで、口コミ的に広がるのが理想的です。しかし、人口減少という問題を抱える日本では、過疎化や離農なども相まって、容易にそれができる状況ではなくなってきています。四大農学部や農業大学校、専門学校等の農業教育現場では、非農家の学生の割合が非常に大きくなり、所によつては、進路として誰も農業生産現場を目指さないということもあるそうです。

農業が厳しい、儲からないと言われて久しいですが、農林水産省のまとめた令和3年農業経営体の経営収支によると、農業経営費は1638万8千円で、前年に比べて3.9%増加しており、農業所得は433万5千円で前年に比べて4.3%増加している

若年への 働きかけが大事

農業大学校生や大学生ともなると、将来の進路は概ね固まっているものです。また、先行き不安な現代に生きる若者は、堅実な人生を重んじるように見受けられ、進路が計画的に決まっています。実際に、留学など少し遠回りすることについて興味を薄らいでいる様子は、啓発キャラバンの訪問先の教育機関でちらほらと耳にします。

そこで、夢を描き、将来を展望するにはもっと若い世代、例えば高校生や中学生、場合によつては小学生の時から、海外農業研修を通じた農業人材育成の啓発が必要となつていのではないのでしょうか？文部科学省の令和4年度学校基本統計によると、高校生約99万人の進路として、農業高校生約2万4千人の約48.2パーセントが進学しており、残り半分が就職（就農）しています。この段階で、海外農業研修を知っているかどうか、その次の

の進路に影響を与える可能性は否定できません。すでにいくつかの県組織では高校での啓発キャラバンにも乗り出しています。こうした取り組みは、巡り巡って必ず効果を出すでしょう。種を植えねば芽は出ず、芽が育たなければ、実はなれません。種を植えるという作業を、今一度見直すことも必要ではないでしょうか。



株式会社 ハクサン

海外研修を受けた皆さん、
私たちと一緒に働いてみませんか。

当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。詳細は下記まで
〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776
<https://hakusan1.co.jp/> <https://provenwinners.jp/> E-mail:recruit@hakusan1.co.jp (担当:横山)

歴史をひも解く書籍多数、 海外農業研修生たちがまとめた書物

研 研修生たちが体験したことは、帰国に際して各自で最終研修報告書（滞米報告書）として取りまとめて国際農業者交流協会に提出することとなっています。しかし、あくまで各自でまとめたものであり公に共有するにあたる資料ではありません。一方で、自分の体験を大切にまとめて、それを自己出版する方もいます。それは当初は自己満足の類と見られることもあるかもしれませんが、数十年後には貴重な歴史資料となります。

海外農業研修は70年の歴史を持つため、かつての研修生の体験を知る大変貴重な資料として国際農業者交流協会にて保管されている書物も少なくありません。昨年度素敵な経営者たちⅡの編纂を中心的に担って頂いた、同協会元職員の窪田悦子さんが、書庫に眠る書物を取りまとめて、その系統と年代に合わせて分類してくださいました。一番古いものでは1953年3月発行の第1回米国派遣農村青壮年報告書があります。たとえば、1955年カルフォルニア農業実習をめぐって、第3回派米青壮年報告のペー지를めくると、当時の研修生の農業研修の体験がみずみずしくよみがえり、またその体験は現代社会でも十分思慮すべき課題を指し示している部分も多く、その正鵠を射る当時の若者の意見にハッとさせられます。

また、社団法人国際農業者交流協会の設立に先立ち吉崎千秋さん（国際農友会元常務理事、第一回派米団長）が取りまとめた国際農友会については、海外農業研修の設立に際して集まった当時の有識者たちの様子が描かれており、その臨場感と創生にまつわる逸話が胸を打ちます。

他にも、当時のアメリカの最新技術などを緻密に図入りで取りまとめた神奈川県国際農業研究会の発行した海外農業実習記もなかなか読みごたえがあります。

米国2年制修了者たちが発行した「仲間」は記憶に鮮明な方も多いと思います。派米研修生達が工夫しながら作成したこの冊子は愛されて全30号が発行されています。全てお持ちの方は果たしておられるでしょうか？

このように、多数の書物がちゃんと残されて、海外農業研修のクロニクルを彩っているのです。なお、複数ある書物については、窪田さんのご尽力により、国会図書館に寄贈され、今後も海外農業研修の研究をする方のために活かされていきます。

【お願い】

海外農業研修に関する貴重な文献、記録をお持ちでお譲りいただける方がいましたら、ぜひご連絡ください。

ご連絡先：国際農友会事務局
電話：03-5703-0253
Eメール：agtre@jaec.org



INFORMATION

インフォメーション

オンラインでつながろう！研修の仲間のチカラ

国際農友会では、ホームページを運営しています。今日はその機能と可能性についてご紹介し、会員の皆さんがますますご利用いただけるようご案内します！

国際農友会ホームページ、New Farmers.jp



<https://www.newfarmers.jp>



県組織はそれぞれホームページやFacebook等のSNSを活用した情報発信をしていますが、それぞれの取組がばらばらになっており、積極的に情報を得ようとしたときに見つけにくいという難点があります。そこで、New Farmers.jpではプラットフォーム的な役割を果たすページを設けました。まだ試験的な運用ではありますが、各組織のためのブログページを用意しています。国際農友会事務局にご相談いただければ、すぐにでも組織のブログ

発信ができるようになっていきますので、お気軽にご相談ください。

また、OB・OGの結束力や海外農業研修の団結を促進する素敵な商品開発も進めています。まずはTシャツとマグカップのオンライン販売をスタートさせました！ネット通販ですので、お気軽にお求め頂くことができます。また、ご購入いただいた費用は、国際農友会の活動資金に充てられるため、買って応援スタイルで関っていくことができます。

素敵な経営者たちII の販売継続中！

本紙前号でもご紹介していますが、全国の海外農業研修生OB・OG達を紹介した冊子（税込10,000円）を販売中です。日本中にこんなに魅力的な農業経営者、そして有識者がいることを改めて認識する素晴らしい1冊。まだ在庫に余裕があります。こちらもぜひお求めください。特典としてデータ版（DVD）も添付されています。

※ホームページからでもご購入いただけますが、eコマースでの販売となるため、金額が異なります。なにとぞご了承下さい。
定価での販売は、国際農友会事務局に行っております。



「土からの学育」

幼児から研修生まで、その「やろう！」とする気持ちを育み伸ばします！！

もりなが ひろなお
森永 大直 (大分県/S63/米2)

- 森永農園 園主：梨の生産・販売・作業受託
- JAEC:US西日本講習所長
- 国際農友会 理事
- 大分県国際農友会 事務局長
- 学研教室指導者：庄内元気な教室/ゆふいん元気な教室
- 雲取神楽社 副代表
- 由布市消防団 庄内方面隊 第5分団長



ご連絡は
電話：03-5703-0253
Eメール：agtre@jaec.org



会員の動向（敬称略、順不同）

同期会

米国2年制21回生 （昭和60年度）同期会

開催日:令和5年11月2日
開催地:愛媛県松山市ホテル道後館



リリアンさん来村歓迎会

開催日:令和5年10月9日
開催地:大瀨村ポルダール湯の湯



米国3年制(昭和38年度) デワリーゴ会

開催日:令和5年6月16日
開催地:愛媛県松山市奥道後



米2年制36回生 （平成12年度）同期会

開催日:令和5年8月26日
開催地:東京都新橋



米国2年制9回生 （昭和48年度）同期会

開催日:令和5年10月15日、16日
開催地:富山県黒部市宇奈月温泉



米国2年制15回生 （昭和54年）同期会

開催日:令和5年11月15日
開催地:山梨県笛吹市石和温泉



叙勲・受賞

令和4年12月 令和4年高齢者叙勲 旭日単光章 佐藤栄光(宮城県/S39/米1)

ご逝去

平成27年9月	伊東 五十夫	(宮崎県/S34/米1)	令和5年1月	今村 峯夫	(鹿児島県/S34/米3)	不明	細谷 聡	(新潟県/S56/米1)
令和元年10月	佐々木 源治	(長野県/S31/米3)	令和5年2月	細川 忠敬	(神奈川県/S34/米3)	不明	富田 芳	(山口県/S36/米3)
令和2年11月	林 央	(千葉県/S45/米2)	令和5年4月	甲元 寛	(三重県/S34/米3)	不明	松井 信喜	(福岡県/S35/米3)
令和3年7月	伊藤 七郎	(三重県/S43/米2)	令和5年4月	金子 潔	(千葉県/S54/オランダ)	不明	白戸 寧	(愛媛県/S34/米3)
令和3年9月	園原 新	(岐阜県/S47/米2)	令和5年4月	篠原 三郎	(千葉県/S36/米1)	不明	入道 忠靖	(富山県/S31/全米)
令和4年3月	深井 幸年	(長野県/S47/米2)	令和5年6月	阿南 勝彦	(大分県/S38/米3)	不明	足立 之男	(岐阜県/S32/米3)
令和4年4月	水野 三隆	(三重県/S31/米3)	令和5年6月	中村 競	(茨城県/S30/米1)	不明	菊地 忠雄	(福島県/S34/米3)
令和4年10月	大橋 芳幸	(岐阜県/S45/米2)	令和5年6月	中村 吉治	(長野県/S37/米3)	不明	浜田 守茂	(高知県/S35/米3)
令和4年10月	小野 正人	(山口県/S34/米3)	令和5年6月	三宅 宣秀	(北海道/S38/米3)	不明	岡林 一栄	(高知県/S38/米3)
令和4年10月	矢野 武平	(大分県/S32/米3)	令和5年7月	吉祥庵 博実	(鹿児島県/S35/米3)	不明	山本 昇	(山口県/S34/米3)
令和4年10月	村木 崇	(三重県/S32/米3)	令和5年8月	赤塚 充良	(三重県/S31/米3)			
令和4年11月	園村 友浩	(熊本県/S35/米3)	令和5年9月	正垣 行平	(岡山県/S35/米3)			
令和4年11月	田中 利松	(長野県/S31/米3)	令和5年9月	宮野 康雄	(埼玉県/S43/米1)			
令和4年5月	峰松 忠士	(佐賀県/S32/米3)	令和5年11月	宜保 光彦	(沖縄県/H3/米2)			
令和4年6月	高橋 利幸	(岩手県/S49/米1)	令和5年11月	宮城 欣也	(沖縄県/S45/米2)			
令和4年8月	奥山 信雄	(三重県/S31/米3)	不明	本城 照雄	(山口県/S31/米3)			

編集後記

国際農友会の理事会が4回のうち2回はオンラインとなっています。研修生の出発や帰国の時に直接お話しすることができるようになりました。人と会うのって、本当にいいなと思います。

